

病理専門医制度運営委員会だより（第19号）

1. 専門医制度について：

2019年度採用予定者は126名で、昨年度（113名）を上回りました。来年度に向けて各プログラムの責任者をはじめ、指導に当たる先生方には積極的な勧誘活動をお願いします。

昨年度よりカリキュラム制度による採用が緩和されるようになってきました。従来の説明ではすでに他の基本領域の専門医資格（内科の場合は認定医も含む）所有者、つまり病理専門医資格とのダブルボードを目指す方が主な対象とされていましたが、妊娠・出産・育児・介護・本人の疾病などでもこの制度を使うことが可能です。今後は事情によってはプログラム制で採用された専攻医のカリキュラム制への移動も可能になるかも知れません。ただし、カリキュラム制の方もプログラム制の方同様に、専門医機構への専攻医登録を行い、システム上で採用していただく必要があります。また病理学会入会後は研修届を提出し研修手帳を受け取ってください。またカリキュラム制度で採用する場合でも原則として教育資源（特に剖検数と指導医数）の確実な確保は必要です。

各プログラムの定員についてもこれまで同様の柔軟な判断をさせていただきます。すなわち、各学年の定員に対する採用人数の考え方以外に、プログラム全体の定員からの採用人数も考慮します。例えば、各学年2名の定員のプログラムに4名の応募があったと仮定します。学年単位で考えると、2名は遠慮していただくこととなりますが、3年間のプログラム全体では2名×3年の6名が定員となるため、全員の採用が可能となります。ただし、この場合はあとの2年間は合計の定員が6-4=2名となります。なお、現在の専門医機構の専攻医募集枠では、定員オーバーの登録はできない仕組みになっていますので、学年単位の定員超過採用の場合は、まず病理学会事務局に連絡してください。連絡が入りましたら病理学会から専門医機構にお願いして、定員超過分も採用できるようにします。繰り返しますが、カリキュラム制度の方はプログラムの定員外ではありますが、施設全体での教育資源を考慮して採用していただく必要はあります。

病理、臨床検査、外科、産婦人科、救急科、総合診療を除く13領域では本年度よりプログラム定員の上限設定（シーリング）が行われています。シーリングは三師調査（2年ごとに年末に行われる医師・歯科医師・薬剤師の勤務状況調査）、将来人口予想、DPCデータなどから計算されており、厚労省によって綿密に作られています。ただ、三師調査によると病理診断科を主としている医師数は、病理学会で想定している数値と食い違いがあり、この数値を基に計算されると不都合が生じる可能性があります。次回の三師調査の時には正確な記入を心がけて

いただくよう、お願いします。なお、このシーリングが今後病理領域まで及んでくるのか、今のところ状況は不明瞭です。

2. 病理専門医資格更新について（再掲）：

2019年秋の更新審査にむけてのお知らせです。内容は従来からのお知らせとほぼ同じですが、更新審査対象の先生方には今一度確認をお願いしたいと思います。専門医機構の単位（4.5年分、45単位）と病理学会の単位（0.5年分、10単位）の混合型で行う更新審査は、本年度が最終となります。

昨年度までの更新手続きで、複数名の先生方で指摘された問題点を説明します。

- ・専門医共通講習：専門医機構による専門医更新には共通講習の受講（3単位以上）が必要です。この3単位うち「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の各1つずつは必修です。これまでの更新ではこの3つのうち「医療倫理」の単位が不足している方がいました。「医療安全」や「感染対策」に比べ、受講機会が少ないためと思われますが、「医療倫理」も確実に受講しておいてください。なお、医療倫理については「研究倫理」の講習会でも認められますので、特に大学など研究機関に勤務されている方はこの講習会の受講証明書を大切に保管してください。2017年度までは共通講習については他学会で開催されたものや、病理学会より認定されている施設（認定施設と登録施設、今後は基幹施設と連携施設）で行われたものでも代用可能です。後者の場合は施設長が発行した受講証が必要となります。各施設における受講証明書は専門医機構が見本を示した書類に準じたものにしてください。特に、講習会の時間が未記載の証明書が出てきた場合は、対応に苦慮しますのでご注意ください。2018年度以降は各施設による共通講習開催のハードルが高くなっています。事前に専門医機構に講習会の登録を申請し、許可の下りた講習会だけが単位の対象となっていますので、詳しくは専門医機構のHPで確認をお願いします。
- ・受講証明書：専門医機構分の各種講習会参加証は各講習会の会場で配布されますので、専門医番号と氏名を記載したうえで更新時まで各自で確実に保管してください。無記名のため書類再提出の方が毎年数名いらっしゃいますが、再提出となりますのでご注意ください。
- ・学術集会参加による単位：学術業績・診療以外の活動実績部分ですが、このうち学術集会参加による単位の上限は5年間で6単位までです。それ以上出していただいても、6単位までしかカウントできません。不足分は学会発表、論文報告、学会座長、学会誌査読などで補ってください。これらも証明できる文書（コピー可）が必要ですので、貼付

をお忘れなく。

- ・病理学会分の点数確認には学会の参加証が必要ですが、参加証は必ず記名したもので、かつ名札部分と領収書部分を切り離さずに提出していただく必要があります（コピーも可です）。なお大きな点数の参加証で提出していただくと審査が助かります。
- ・専門医広告：本文執筆時点でもまだ専門医機構専門医はまだ医療上の広告可能専門領域になっていません。全領域で専門医システムが順調になった時点では広告可能になると思われませんが、現時点の対応として専門医機構で更新された方は自動的に病理学会での認定更新もされることになり、認定更新シールを配布して対応しています。
- ・秋に向けて病理学会の資格更新手続きや専門医資格更新ガイダンスの改定を行いますので、確認のほど宜しくお願ひします（<http://pathology.or.jp/senmoni/index.html>）。従来の病理学会認定による更新は本年度が最終となります。可能な限り日本専門医機構による新しい病理専門医資格更新基準のもとで申請手続きをしていただきたいと思います。やむを得ない事情がある場合は学会専門医での更新申請もしていただけます。

以上のことを踏まえて、更新書類の提出前に確認をお願いします

- ・学会参加証や各種講習会受講証明書への記名はされているでしょうか。
- ・共通講習、特に「医療倫理」は受講済みでしょうか。
- ・学術集会参加による単位の上限は6単位までです。
- ・2017（平成29）年度までに施設内で行われた共通講習の受講証は専門医機構の見本に準じたものでしょうか。
- ・病理学会分は大きな点数の参加証で提出していただくと審査が助かります。

3. 専門医受験資格審査について：

今年度の専門医試験願書の審査は終了し、出願者115名の全員が無事受験資格ありと判断されました。とはいえ、全員が簡単にクリアできたわけではなく、115名中31名で書類の不備などが指摘され、不備の補填など再提出が求められました。例年このような再提出事例が発生するのですが、不備になりやすい項目について説明させていただきます。

- ・研修手帳（病理専門医研修ファイル）：毎年度ごとの指導責任者による評価が必要です。「病理専門医研修ファイル」への評価と認証捺印及び日時記載を確実にお願いします。捺印や日付記載がないため、一旦返却となる事例が毎年数件発生しています。なお、評価方法についてはカリキュラム制度で採用された方も同様、年度ごとの評価をお願いします。
- ・受験に必要な講習会：「剖検講習会」、「病理診断に関する講習会（病理学会病理診断講習会、国際病理アカデミー主

催の講習会など）」、「細胞診講習会（日本臨床細胞学会細胞診専門医有資格者は不要）」を確実に受講して受講証明書が研修手帳に貼付されていることをご確認ください。加えて2015年4月からの専門研修開始者は「分子病理講習会」の受講も必須となっていますのでこちらもお忘れなく。分子病理講習会は病理学会総会時のもの以外に病理学会カンファレンスもしくはゲノム病理標準化講習会（2018年度開催分より）の出席でも認められます。いずれにしても受講証明書の貼付を確認してください。

剖検講習会は春の総会時に開催されていますが、受講には受講料（1,000円）が必要です。受講者は事前に病理学会HPに掲載される「剖検講習会について」を確認してください。講習会当日にはHPに掲載されている課題に対する回答レポートの提出が必要です。レポートは当日2部印刷して持参し、1部は会場で入場の際に専用受付で提出してください。レポートと引き換えに受験資格用の受講証をお渡しします。もう1部は聴講時の勉強用です。当日受付に印刷機器はありませんので、必ず事前に印刷しておいてください。提出用のレポートには、①タイトル「〇〇年度剖検講習会課題レポート」、②日本病理学会会員番号、③氏名、④課題の4項目の記載をしてください。なお、剖検講習会はすでに専門医資格保有者も聴講可能（病理領域別講習会として単位付与対象）のため、「受験者・課題提出」の方と「専門医資格保有者」の方を別々の会場入口から入場していただいております。それぞれ手渡される受講証明書が異なるため、受験予定の方は「受験者・課題提出」の入口から入場し、剖検講習会受講証明書を受け取ってください（横長の証明書です）。手札サイズの「病理領域別講習受講証明書：剖検講習会」は、受験資格の証明書にはなりませんので、ご注意ください。

分子病理講習会は総会以外に上述の病理学会カンファレンスもしくはゲノム病理標準化講習会という受講機会が設けられています。対象となる講習会は病理学会HPの専門医＞専門医試験必須講習会に掲載されています。

死体解剖資格は、2018年度より主執刀20例かつ第一例から2年以上の経験が必要となりました。この資格審査には例年日数を要することが多いため、受験予定者は資格ができた時点で直ちに申請をしてください。なお、死体解剖資格や病理専門医受験のための解剖症例は、病理専門研修開始後の症例だけが対象となります。初期臨床研修期間の症例はこれらには使うことができません。

- ・病理解剖報告書：30例もしくは2014年以前の研修開始者は40例の剖検報告書の写しが必要です。これには本人と指導医のサインが必要です。主診断医が診断者名の筆頭にあることが望ましいのですが、施設（システム）により執刀医や診断医が不明瞭な病理解剖報告書があります。自施設の剖検報告書を確認し、もし主診断者や執刀医が筆頭に

きていない報告書であった場合は、指導責任者による一筆（申請者が執刀し診断したことを保証する文書）をお願いします。

- ・術中迅速診断報告書：50例が必要です。この写しには本人のサインが必要です。こちらも剖検報告書と同様、施設により主診断医が不明瞭な術中迅速診断報告書があるので、その場合も指導責任者による一筆（申請者が主に診断したことを保証する文書）をお願いします。
- ・人体病理学の業績：3編以上が必要ですが、3編中1編は論文でなければいけません。論文は本学会が発行している診断病理や Pathology International (PI) に関しては Letter to the Editor も可) 以外に、適切なレビューシステムのある病理関連の国際雑誌であれば認められます。また病理関係の雑誌でない場合でも、適切なレビューシステムのある雑誌であり、かつ論文の主旨に病理診断が関係し、病理診断に関する写真(図)があれば認められます。ただし国内誌で大学や病院など施設単位の紀要レベルのもの、都道府県単位の地方誌レベルのものは原則として対象外となりますのでご注意ください。いわゆるハゲタカジャーナルについては今後検討していく予定ですが、現時点でも遠慮していただくほうが確実です。なお、掲載雑誌が受験資格として適切かどうか判断が難しい場合は、事前に病理学会事務局にご相談ください。また業績3編のうち1編は受験生本人が筆頭でなければなりません、これは学会発表でも可です。発表は地方会も可ですが、その対象となる会は病理学会の単位付与が認められているものに限られます。

以上のことを踏まえて、願書の提出前に指導責任者の確認をお願いします

- ・研修手帳への認証捺印と日時記載。
- ・各種受講証。特に剖検講習会受講証明書が受験者向けのものか。
- ・病理解剖報告書の写しへの本人と指導医のサイン。
- ・術中迅速診断報告書の写しへの本人のサイン。
- ・必要に応じて病理解剖報告書や術中迅速診断報告書が本人のものである証明（指導責任者の一筆）。
- ・業績が適切か。

4. 専門医試験の会場について：

これまでも説明してきましたが、本年度も受験生の増加(従来の4年研修の方々と2015年から導入された3年研修の方々が同時に受験)と2020年の東京オリンピック開催を考慮して、関東支部(東京医科歯科大学)で行います。2020年は近畿支部で行われます。これまで神戸大学での開催を予定していましたが、受験生が口腔病理専門医も含め120名強になると予想されるため、試験で使う顕微鏡の台数が確保可能な大阪大学(医学部と歯学部を利用)で行われる予定です。

5. 今後の日程について：

- ・2019年病理専門医試験は2019年7月27-28日に東京医科歯科大学で行われます。
- ・病理学会カンファレンスは2019年8月2-3日に北海道で開催されます。
- ・希少がん診断のための病理医育成事業が始まりました。各支部開催と本部開催がありますので、日程や会場はHP (<https://rarecancer.pathology.or.jp/>) でご確認ください。希少がん病理診断講習会は、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております(4コマすべて受講した方にのみ4単位を付与)。
- ・2019年度の細胞診講習会は2020年2月8-9日に京都大学で開催されます。
- ・2019年ゲノム病理標準化講習会は、2019年9月7日(土)に東京、2019年10月5日(土)に福岡、2020年2月1日(土)に大阪で開催いたします。本講習会の聴講生には病理専門医更新のための病理領域講習4単位が付与されます。また、病理専門医認定試験の受験資格である「分子病理診断に関する講習会」の1つとしても認められます。

6. 分子病理専門医認定制度について

日本病理学会ではこれまで分子病理専門医認定制度に関して検討を行ってまいりましたが、先日の第108回日本病理学会社員総会にて本制度が承認されましたのでご案内申し上げます。

【目的】

ゲノム医療実現のための分子病理学の重要性にかんがみ、日本病理学会分子病理専門医の認定制度を設ける。この制度は、ゲノム医療において求められる技術や知識を身につけ、エキスパートパネル等で卓越した知識のもと助言等が可能な能力の優れた専門の分子病理医を認定することにより、わが国の医療の一層の充実と発展に寄与し、併せて分子病理学の進歩発達に資することを目的とする。

【背景】

ゲノム医療の開始にあたり、現在、「がんゲノム医療中核拠点病院(以下：中核拠点病院)」や「がんゲノム医療連携病院(以下：連携病院)」において、遺伝子パネル検査が実施され、その結果に基づいて中核拠点病院にてエキスパートパネルが開催されている。さらに2019年度中には全国に約30カ所の「がんゲノム医療拠点病院(以下：拠点病院)」が新設され、拠点病院でもエキスパートパネルが開催される予定となっている。

遺伝子パネル検査には病理組織検体(FFPE)が主として用いられるため、病理専門医による検体のクオリティマネジメントや腫瘍細胞比率の判定等が最も重要な要素となる。さらにエキスパートパネルでは、特に病理診断と関連した分子病理学的な判断が求められることから、この双方を兼ね備えた専門性の高い知識を有する医師の育成及び認定が必要である。

日本病理学会では、卓越した知識および技術を有する分子病

理専門医を 87 名認定（暫定）し、現在、がんゲノム医療中核拠点病院におけるエキスパートパネル等で活躍中である。

【認定委員会】

日本病理学会病理専門医制度運営委員会

【認定対象者】

日本病理学会認定 病理専門医（日本専門医機構認定も含む）
試験要綱や今後の認定の道筋等、詳細はホームページをご確認ください。

<http://pathology.or.jp/senmoni/bunshibyouri.html>

（文責：森井英一・大橋健一・中黒匡人・村田哲也）

==特集① サブスペシャリティ =====

サブスペシャリティへの想い：骨軟部腫瘍病理への雑感

札幌医科大学医学部病理診断学

札幌医科大学附属病院病理診断科 杉田 真太郎

思えば今から約 7 年前、札幌医科大学で骨軟部腫瘍病理の修行を積むべく、北海道、苫小牧行のフェリーに単身乗り込んだ。大学生生活と卒後合わせて 20 年間住み慣れ親しんだ茨城県を離れ、かつ妻と生後 8 カ月の娘を残しての移動であり、今思えば大変大きな決断であった。苫小牧行きフェリーは茨城県の大洗町から出ており、いざ大洗港を出航する際には大変寂しい思いと、新しい環境への不安と期待が入り交じったなんとも表現し難い複雑な心境であったと記憶している。

気候から全く異なる札幌での単身生活はなかなか大変であったが、わが母校の病理学教室の教室訓、病理医たるもの「気力、体力、思考力の限界を作らない（へばったらがんばれ）」、「どんなことでも極端にやらなければ身につかない」（一部抜粋）を信条となし、ひたすら修行に励んだ。豊富な骨軟部腫瘍症例、非常に恵まれた指導環境のおかげもあって、今では骨軟部腫瘍を専門とする病理医として大変充実した生活を送っている。仕事に邁進しすぎ、家族から愛想をつかさされそうにもなったが、離婚されなかった現状を鑑みるとよい経験であったと思うとともに、私のわがままを見守り支えてくれた家族には心から感謝するのみである。

もともと、私は骨軟部腫瘍の組織学な多彩性に興味を持ち、この領域の専門を目指すに至った。学生の頃から病理学実習で顕微鏡をのぞくことが好きであり、病理医になった後も単純に多彩な組織を顕微鏡で観察し、細胞への思いを巡らせながら仕事をするのが好きである。この点、組織型の多彩な骨軟部腫瘍病理は私にとってうってつけの領域であり、難解な症例を形態観察に加えて、免疫組織化学、FISH などの遺伝子検査も駆使して確定診断に至った時にはこの上なく仕事へのやりがいを感じる。一方、経験豊富な上司の洗練された診断アルゴリズムや豊富な知識を目の当たりにするたびに、自身のヘッポコ病理医ぶりを痛感し、修行不足への反省と、さらなる修行への決意を胸にする日々である。

今般、骨軟部腫瘍領域では新たな分子生物学的知見が暇なく報告されている。転座関連肉腫における次世代シーケンスによる新規キメラ遺伝子の同定など、強力な分子生物学的手法によるアプローチは、いつの日か形態診断を凌駕するのではないかと思われる。これからの時代、こういった最新の分子生物学的知見にも明るくないと「骨軟部腫瘍を専門」と自身で標榜するには至らないと考える。ますます勉強することが増え、読むべき論文が増え、仕事が増え、文字通り日々いっぱい生活であるが、骨軟部腫瘍病理という学問からもたらされる飽くなき探求心と自身の興味がつきぬ点からは、この領域を出会えたことを病理医として幸せに思う。とにかく気力、体力が尽きるまで日々修行ですね。

サブスペシャリティについて

国際医療福祉大学医学部病理学 高橋 芳久

私は肝臓の病理学を専門にしていますが、本稿ではそれに至った経緯やこれまでの研究、今後の目標について述べたいと思います。私が病理学の世界に進んだきっかけは、東京大学医学部の学生時代に受けた病理学の講義や実習に興味を持ったことです。特に印象に残っているのは分子病理学教室の実習で、学生が自分でラットの肝部分切除を行い、翌週にそのラットの剖検を行って、肝臓の再生能を見るところでした。わずか 1 週間程度のうちに肝臓がもとの大きさ近くまで再生することに驚いたのをよく覚えています。思えば、これが肝臓の実験病理学に接した最初の経験でした。

医学部を卒業すると同時に、私は分子病理学教室の大学院生になりました。当時の東京大学分子病理学教室では、石川隆俊教授の指導のもと、DNA 修復と発癌に関する研究が活発に行われていました。特に遺伝子改変マウスを用いた研究がさかんで、私に与えられた研究テーマは色素性乾皮症 A 群 (XPA) 遺伝子欠損マウスの肝発癌感受性でした。結果として、XPA^{-/-}マウスは、自然発生肝腫瘍にも、アフラトキシン B₁ 誘発肝腫瘍にも、XPA^{+/+}や XPA^{+/-}マウスよりも高い感受性を有することが明らかになりました。与えられたテーマが肝腫瘍であったことが、その後私が肝臓を専門にする理由の一つになりました。

大学院を修了し、東京医科大学病院や東京大学医学部附属病院の病理部で病理診断の研鑽を積んだ後、帝京大学病理学講座に異動しました。そこで志賀淳治先生、福里利夫先生、近藤福雄先生など、わが国を代表する肝臓病理学者のもとで研究を行う機会を得たことが、私が肝臓病理を専門にする決定的な理由になりました。福里先生の勧めで、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)/非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) を研究の中心テーマにしました。NAFLD/NASH はメタボリック症候群に関連する肝疾患で、その頻度は全世界的に急速に増加しています。また、肝硬変や肝細胞癌に進展することがあり、医学的・

社会的に非常に重要な疾患です。

私たちの研究グループはこれまでに高フルクトース食負荷などによる NASH 動物モデルを開発し、またそれら動物モデルを用いた研究で、漢方薬の小柴胡湯や十全大補湯、ユーカリやバナバ葉抽出物、少量エタノールの NASH 抑制効果を明らかにしてきました。また、NASH の病理診断における観察者間の一致率が低いことや小児 NAFLD の組織病理学的特徴を明らかにしました。

今後は、新しい遺伝子操作技術やゲノム解析の知見も取り入れて、より正確にヒト NAFLD/NASH の病態を反映する動物モデルを開発し、それを用いて NAFLD/NASH 発症や NASH 発癌の機序を解明し、新しい予防・治療法を開発していきたいと思えます。また、新しいイメージング技術も取り入れ、NASH の病理診断の標準化を目指したいと思えます。

サブスペシャリティとしての婦人科病理

The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center
Johns Hopkins University School of Medicine
信州大学 浅香 志穂

私が婦人科病理を選んだのは、学生時代から海外留学することを夢見ていたので、産婦人科医の夫と一緒に留学できる可能性が高い分野というのが一番直感的な動機です。念願叶って現在は、米国癌研究施設の婦人科病理のラボで、夫婦揃ってポスドクとして勤務しています。ラボでは、夫は基礎研究、私は病理組織学的手法を用いて、時には同じプロジェクトに参加し、卵巣癌や子宮体癌などの婦人科腫瘍や子宮内膜症の病態解明や新規治療法の開発を目指して、日々研究生活に勤しんでいます。

私が感じる婦人科病理の面白さは、女性生殖系の生涯を通じたダイナミックな変化に触れられることだと思います。象徴的なのが子宮内膜の変化で、年齢、性周期、内分泌環境、ホルモン治療などで組織像は大きく変化するので、組織診にあたっては常に患者の臨床的背景を配慮しなければなりません。また腫瘍の組織像は多彩で、特に卵巣癌では子宮内膜症や卵管病変の有無など、腫瘍の由来を意識しながら診断を進める必要があります。一筋縄で診断ができないところが、婦人科病理の診断面の面白さなのかもしれません。

研究面で感じる婦人科病理を選んで良かった点は、これだけ次世代シーケンズ解析をはじめ様々な分子生物学的な解析手法が増え、その組織像や遺伝的背景の多様性、解剖学的な構造の複雑性から、まだまだ形態学的な解析手法が重要な位置付けを占めるということです。私が現在所属するラボでも、診断病理医として形態学的評価や臨床的因子との相関解析を求められる場面は多々あり、基礎研究から臨床への橋渡し役としてやりがいを感じられますし、まだまだ婦人科疾患は病理組織学的検討の開拓のしがいがある分野だということに気づかされます。一方で研究対象が女性に限定されるので、検体を集めるの



筆者と夫が所属する Molecular Genetics Laboratory of Female Reproductive Cancer

にやや苦勞するという点は否めません。それでも、女性特有の疾患の病態解明や予防に研究成果が貢献できる期待と喜びは大きいと感じます。

米国では、特に検体数の多い婦人科病理では、婦人科検体だけ診断していれば病理医としての仕事が成り立つ病院が多いと聞きます。患者の立場にたてばスペシャリストに診断してもらいたいというのは当然のことで、日本でも病理医がより専門性を高められる教育システムは必要だとは考えますが、一方で様々な臓器を普段から診断していることで得られる気づきや、診断や研究の手掛かりがつかめることも少なからずあります。また医療資源も人材も限られている日本で、米国に倣ったサブスペシャリティを構築するには超えるべき壁が多いのも事実です。近年注目の集まっている病理医のワークライフバランスも鑑みながら、今後日本の医療体制の良さを生かした病理医のサブスペシャリティ教育が行われることを切に願っています。

私の病理診断歴

兵庫県立がんセンター病理診断科 梶本 和義
このたび特集記事「サブスペシャリティ」で執筆の機会を頂きました兵庫県立がんセンター病理診断科の梶本和義と申します。本稿の執筆を一旦お受けしたものの、学術的業績に乏しい私に、題目に相応しい内容は書けそうにない思いもあり躊躇していましたが、この上ない機会ですので、一般病理医としての私の経験を中心に述べさせていただきます。

私が血液内科研修医として勤務した 1990 年台前半は、造血器腫瘍の診断に REAL 分類が普及し始め、全国的に骨髄移植が本格化した頃で、表面マーカーや遺伝性・染色体解析を用いた診断や、移植医療に先進性を感じた半面、分類困難な腫瘍や複雑な移植合併症にもしばしば直面しました。特に移植合併症には積極対応を取ったにもかかわらず（予想に反し）、多くの方が重篤な転機を辿ったことから、結果的に、総合判断の重要性をひしひしと感じさせられました（病理医を志す動機）。こ

の内科研修に引き続き母校の大学院に進学し、その後、幸運にも愛知県がんセンター（当時は、中村栄男先生が遺伝子病理診断部の責任者）や、更に、名古屋第一赤十字病院（伊藤雅文先生）で学ばせていただく機会に恵まれ、抱いていた疑問の多くは一気に解決の方向に向かいました。これらの施設では、豊富な経験や知見に基づいた圧倒的な診断力のみならず、専門研修や研究ができる基盤が見事に整っていました。ある日、移植関連の微小血管障害の標本を自己学習のため顕鏡していると、私のよく存じ上げている患者の標本を発見し、過去の自分の総合診断力の無さを悔やんだことを覚えています。私は2003年に兵庫県立がんセンターに当初血液内科医として赴任し、血液内科診療だけでなく病理診断も担当させていただくうちに徐々に病理医にシフトしました。病理医になった現在も診療科長のご配慮により、造血器腫瘍や移植合併症を重点的に担当させて頂いていますが、これらの疾患の診断に際し、私が心掛けていることは（ごく普通のことですが）、臨床像をよく把握して診断することであり、疑問があればすぐに各部門の担当者に相談しています（幸い、当院は中規模の公立病院であり連絡は取りやすい）。

近年、特異的な遺伝子変異がそのまま疾患名になり（従来は、組織所見や臨床像が分類の拠所であった）、この疾患に分子標的薬が著効するとなれば、尚更、検査の導入を試みたくなるのですが、検査体制が整わないまま、分類が改定される有様で、自施設での診断に限界を感じます。当面は、担当科と協力しながら検査体制を一つ一つ作り上げていくことが大事と思っています。直近ではFISH画像解析装置の更新により、組織・細胞像と一体化した評価が簡便に行えるようになり、特に病態把握が急務な状況で（移植合併症や腫瘍の形質転換など）、必要情報を素早く提供できるよう努めています。

以上のように、私の職歴を振り返れば、基軸になるものを得た実感はありませんが、日々研鑽を積み確かな技術を習得して人々のお役に立てる仕事をしたいと思っております。最後になりましたが、これまでお世話になった先生方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

私のサブスペシャリティ、私が肝臓を専門にしたワケ

徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野
常山 幸一

サブスペシャリティという言葉はとても面映い。本来ならば、誰もが認める大御所がようやく名乗れる言葉ではないかと個人的には思っている。ただ、私が曲がりなりにも「肝臓病理が好きです」、と言えるようになったのは、3人の大御所との出会いのお陰である。

最初の恩師は中沼安二先生である。平成4年に金沢大学第二病理の大学院生となり、中沼安二教授から肝臓病理のイロハを教わった。世界的に有名な肝臓病理医である中沼先生とのところには、国内外からたくさんのコンサルテーション症例が集

まっていた。毎日のように開かれる肝生検を診る会で、これら多くの症例を経験させて頂いたこと、そして診断に至る過程を直接ご教示頂いたことは私の大きな礎になっている。

平成14年に富山大学に異動となった際には、肝臓カンファレンスの病理コメンテーターとして指導に来ておられた中野雅行先生から薫陶を受ける機会に恵まれた。中野先生は個々の症例を非常に大切にされ、様々な角度から病変の成り立ちを考えておられた。臨床医との密なやり取りの中で呈示された診断には哲学が溢れており、病理はアートである、という言葉を再認識させて頂いた。中野先生は版画の達人であるが、肝臓病理ご専門の先生には芸術家肌の先生が多いような気がする。単調な肝臓の組織の中から、魔法のように色々な所見を見つけ出す様子は、独自の色を紡いで作品に仕上げる芸術家の姿に重なってくる。中沼先生と一緒に肝生検を診ている際に、先生が、「この方は昨日パンを食べましたね」と呟かれたときの衝撃は忘れられない。

最後に、私が大学院生のときに留学し、以降も交流を続けさせて頂いているカリフォルニア大学デービス校リウマチ・アレルギー・臨床免疫学の教授であるガーシュイン先生のお名前を挙げたい。ガーシュイン先生は原発性胆汁性胆管炎の世界的な権威である。ガーシュイン先生は国内外からたくさんの研究者を受け入れており、日本から留学した研究者は50人を軽く超えている。その多くが肝臓を専門にする臨床医であり、幸運なことにそれぞれの先生方が日本に帰られた今も交流を続けさせて頂いている。肝臓病理医を育てるのは優秀な肝臓臨床医である。同じ釜の飯を食った、「なんでも相談できる肝臓臨床医」の存在は、自身の経験値を大きく上げてくれている。先日、一緒に標本を見ていた臨床の先生に、「先生はとても嬉しそうに肝生検を見るのですね」と言われてハッとした。肝臓病理をサブスペシャリティとする大御所の域にはまだまだ及ばないものの、肝臓病理好き、くらいは自分で言っても罰が当たらないように思っている。

サブスペシャリティ

久留米大学病院 病理診断科・病理部 内藤 嘉紀

今回、「サブスペシャリティ」についての執筆依頼を受けて「選択の理由」を思い返しました。私の「サブスペシャリティ」は胆膵病理・細胞診ですが、胆膵領域と思って勉強を始めたのは医師3年目（大学院）からです。外科医を目指していた初期研修医時代に、「これからは膵臓癌だから、立派な膵臓外科医になるために膵臓病理を勉強しなさい」と強く諭され、久留米大学第一病理へ大学院入学しました。当時の久留米大学第一病理は神代正道教授が主宰されており、肝臓病理研究が中心でした。大学院入学早々に「膵臓病理だったら順天堂大学第一病理の須田耕一先生の所に勉強に行きなさい」と勧められ、須田耕一教授主宰の順天堂大学第一病理に国内留学をしました。（故）信川文誠先生の指導により膵臓形態病理が理解できるように



なった事で、私の「サブスペシャリティ」の基礎が出来たと思えます。その後、「サブスペシャリティ」の勉強を進めるうちに海外留学希望が湧き、当時東京大学人体病理に在籍されていました福嶋敬宜先生のご紹介で海外へ留学する事が出来ました。その後は、久留米大学病理学講座 教授 矢野博久先生、病理診断科・病理部 教授 秋葉純先生の下で、胆膵病理を「サブスペシャリティ」として日常業務に向かっています。また、日本膵胆道病理研究会（会長：東北大学 教授 古川徹先生）が主宰するコンパニオンミーティングや懇親会にも参加することで、同年代の仲間と切磋琢磨しています。もう一つの「サブスペシャリティ」である胆膵細胞診については、順天堂大学第一病理に留学していた時に、「胆膵病理をするなら細胞診をして診断学を学んでおいた方がよいよ」というご指導を受けた事で、これまで継続して勉強を続ける事が出来ています。

このように、「サブスペシャリティ」という問いかけに答える事が出来るのは、多くの先生方との出会いがあった事は当然ですが、講座研究の本流（久留米大学第一病理は肝臓病理）とは違う「サブスペシャリティ」を許容して頂く職場環境が、「サブスペシャリティ」維持のための最重要ファクターであると思えます。そういう意味で、講座や施設の研究に対する雰囲気や方針は、所属医師の「サブスペシャリティ」選択に大きな影響を及ぼすのは間違いないものと思います。ちなみに、私の所属する講座は最高です！

皮膚病理との邂逅・皮膚病理への誘い

鹿児島大学病院 病理部・病理診断科 平木 翼
私の大学では毎週水曜の朝、皮膚科医局で約1時間程度の臨床病理カンファレンスが開催されます。前の週に病理診断報告がなされた全ての患者について、病歴や皮疹の画像、病理組織像の比較を行い、診断や治療について討議します。時に急患についての討議もなされ、初見で病理組織像について意見を求められることもあります。私がまだ病理医を志し始めたばかりの頃、当時の上司にこつこつと何気なく参加してからほぼ毎週通

い続け、はや12年の歳月が経ちました。今では皮膚病理診断研究会学術幹事の末席に加えて頂き、皮膚病理に精通された諸先輩方から多くを学ばせていただく機会も得ました。

診断病理学≒外科病理学≒腫瘍病理学の色合いが強い昨今、当大学の皮膚病理診断はその半数以上が炎症性疾患で、無汗症や脱毛症なども含めるとその割合は約7割に上ります。若干特殊な状況と感じなくもないですが、私にとっては極めて幸せな状況でもあります。皮膚炎症性疾患は発生してから消退するまでに様々な顔つきを呈し、治療による修飾によってもその様相を大きく変えます。そして皮疹の性状と共に、病理組織像も刻々と変化していきます。およそ3mm径の小さなパンチ生検のHematoxylin-Eosin 標本をじっくり検鏡し所見を拾い上げていき、パターン分類を行い、鑑別疾患を考え、その後患者の病歴や皮疹・ダーモスコピーの画像との対比を行う…、そのサイクルが私にはたまらなく心地よく興味深いのです。

皮膚腫瘍についても、2018年にWHO分類（第4版）が発刊され、様々な改訂がなされました。悪性黒色腫はこれまで、異型メラノサイトの増殖の程度と様式によって4型に分類（いわゆるClark分類）されてきましたが、Bastianらはこれを持続的な日光曝露の有無や発生部位、関連する遺伝子異常に基づき9経路に再分類しました。また表皮系腫瘍や汗腺・毛包等の付属器腫瘍等の領域についても、関連する遺伝子異常が付記されました。皮膚腫瘍を検鏡しながらその病理組織像からどのような遺伝子変異や融合遺伝子、コピー数変化が存在するのかに思いを巡らせるようになり、がんゲノム医療の実装が急速に進む今、皮膚腫瘍についてもその波が押し寄せていることをひしひしと感じます。

古典的な病理組織像のパターン分類を軸とする炎症性疾患と形態学にゲノム情報が加わりパラダイムシフトが起こりつつある腫瘍性疾患。極めて対照的な二面性を併せ持つ皮膚病理。まだまだ私の「サブスペシャリティー」と言うにはおこがましいですが、奥深く面白味に溢れたこの領域にお先に浸りながら、皆様のお越しをお待ちしています。

==特集②===== 雑音クリエイターの形

社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 病理診断科
藤澤 孝志

幼少の時から歌に興味がなく記憶している歌と言えば

♪さあ楽しい (°ω°) ポーレケ♪

♪この道は (°ω°) ツカチマシアア-♪

くらいでしょうか。正式名は記憶にありません。そんな訳で研修医時代は困りました。特に外科系はカラオケと親和性が強く、宴会→カラオケの鉄板コースでdutyがこなせない。歌いたくないのではなく本当に知らないから歌いようがありません。

時は変わって幼少時。姉兄のピアノ教室を横目に育ち、ピア

ノに触る機会があった事や音楽室から借りた楽器で音を出す事に興味を持っていましたが、末っ子で面倒だったのかはたまた金銭的問題か、私だけ楽器を学ぶ機会無く雑音クリエイター化していきました。時は流れオタクとして成長した私は同人サークルで簡単なゲーム etc を作る活動に勤しむようになります。ここでは特定の技能を持つ人以外は企画段階で役割が決まるのですが、たまたまオンラインになり損ねたある日、何故か音楽担当に割り当てられてしまい雑音クリエイターの私は途方に暮れてしまいます。

時はパソコン通信の時代、ググればフリー素材が得られる環境もあります。そこで「ならば音の作り方を勉強しよう」と発想を転換しあらゆる本を集め独学を開始しました。しかしその内容は多岐に渡り独学は困難を極めました。雑音クリエイターに良いスパイスとなったようで、音の考え方や楽器について多くの気付きの機会となりました。当時は MIDI 黎明期、生み出した音が一定の評価を頂いたことも Roland 製 SC-88pro を武器に DTM にのめり込む一因となりました。オリジナルは勿論、電車の発車 BGM や生活音シリーズを同人イベントで販売するなど（当時は寛大な時代でした）生活の糧として、趣味として仲間達と時間を過ごしたのは良い思い出ですが、それも某著作権協会の活躍と私の卒業と共に終焉を迎え、多忙も重なり雑音クリエイターの一面を見せる事はなくなっていきました。

テクノロジーがダイヤルアップからブロードバンドへ進化しインターネットも隆盛を迎えた頃、私は僻地医療を担う臨床医として血圧計のゴム球を握り、夜は当直室で毎日を送っていました。代わり映えのないある日、you tube でウサギのかぶり物をした女性が見事に同嗜好のバイオリンを弾く動画に衝撃を受け、忘れていた雑音クリエイターの記憶が蘇りました。「自分もできそう」などと安直な思索に耽っていた所に運命か、12,000 円のバイオリンと出会った私は即座に購入し独学を始めました。夜な夜な当直室で練習し「2 階から変な楽器の音がする…」などと心霊現象扱いされた時期もありましたが、練習時間を確保できた事や学習動画のおかげで独学なりに音を出すスキルを会得し、当直室でかぶり物演奏をしては動画を作る心のオアシスを作ることに成功しました。

そして現在、未だに歌に興味が無くカラオケが嫌いな私ですが、動画や交通遺児のために教会で、時にはオタクの街に現れては場所に相応しい雑音を弾き散らかしています。これもまた時代なりの楽しみ方であるように思うのです。

== 支部報告 ==

-- 北海道支部 -----

北海道支部会報編集委員 田中 敏

学術活動報告

2019 年 3 月 16 日（土）、第 186 回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が田中伸哉先生（北海道大学大学院医

学研究院腫瘍病理学教室）のお世話で、北海道大学医学部学友会館フラテにて行われました。

症例検討は以下の通りです

症例検討

番号 / 発表者（と共同演者） / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名（主なもの） / 臨床診断 / 発表者の病理診断

18-18: 小西康宏¹、高橋典之²、今信一郎¹ / ¹市立室蘭総合病院臨床検査科、²市立室蘭総合病院呼吸器外科 / 50 歳代 / 女性 / 肺 / CT で増大傾向を示し、免疫染色で CD5 と CD117 (KIT) が陽性を示した肺腫瘍の 1 手術例 / Ectopic thymic tumor, compatible, intrapulmonary thymic squamous cell carcinoma, probable

18-19: 小田義崇¹、石田雄介²、伊勢昂生³、谷川 聖²、杉野弘和²、田中伸哉² / ¹北海道大学大学院医学院腫瘍病理学教室、²北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室、³北海道大学医学部医学科 / 80 歳代 / 女性 / 大腸 / 下痢を主訴として受診した高齢女性の腸管病変 / systemic mastocytosis

18-20: 伊勢昂生¹、後藤田裕子²、小田義崇³、谷川 聖⁴、杉野弘和⁴、石田雄介⁴、田中伸哉⁴ / ¹北海道大学医学部医学科、²札幌厚生病院病理診断科、³北海道大学大学院医学院腫瘍病理学教室、⁴北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室 / 70 歳代 / 女性 / 子宮 / 診断に苦慮した子宮腫瘍の一例 / uterine tumor resembling ovarian sex cord tumor

18-21: 辻 隆裕¹、石立尚路¹、牧田啓史¹、岩崎沙理¹、深澤雄一郎¹、川口愛²、古屋充子³、三上修治⁴ / ¹市立札幌病院病理診断科、²市立札幌病院泌尿器科、³横浜市立大学医学部分子病理学、⁴慶應義塾大学病院病理診断科 / 30 歳代 / 男性 / 腎 / 30 代男性に偶発的に発見された腎腫瘍の一例 / SDH-deficient RCC

18-22: 瀬川恵子¹、菅原太郎¹、伊藤夢美香¹、辻光洋¹、藤田裕美¹、杉田真太郎²、江森誠人²、長谷川 匡¹ / ¹札幌医科大学附属病院病理診断科、²札幌医科大学附属病院整形外科 / 0 歳代 / 女性 / 軟部 / 小児女児の側胸部皮下に発生した軟部腫瘍 / myoepithelioma

標本交見会に引き続き、第 186 回日本病理学会北海道支部学術集会 特別講演（共催：日本病理学会北海道支部）が行われました。

「乳腺腫瘍組織型診断の考え方」

がん研有明病院 臨床病理センター 堀井理絵 先生

-- 関東支部 -----

関東支部会報編集委員 富田 裕彦

第 82 回日本病理学会関東支部学術集会

日 時：平成 31 年 3 月 9 日（土）13:00~17:35

会 場：日本大学松戸歯学部

世話人：日本大学松戸歯学部 病理学講座 久山 佳代

事務局：日本大学松戸歯学部 病理学講座

【特別講演 1】

演題：取り扱い規約の改正点(頭頸部癌取り扱い規約、口腔癌取り扱い規約)と WHO2017 における上気道・咽頭・口腔の表面上皮腫瘍性病変について

座長：草間 薫 (明海大学歯学部病態診断治療学講座病理学分野)

講師：森 泰昌 (国立がん研究センター中央病院病理科)

【特別講演 2】

演題：免疫組織化学の導入による口腔上皮性異形成・上皮内癌の客観的病理組織診断の均霑化を目指して—新潟大学医歯学総合病院歯科病理検査室での取り組み—

座長：森 泰昌（国立がん研究センター中央病院病理科）

講師：丸山 智（新潟大学医歯学総合病院歯科病理検査室）

【ミニレクチャー】

演題：頭頸部粘膜癌の病理：扁平上皮癌から大細胞神経内分泌癌まで

座長：羽尾 裕之（日本大学医学部病態病理学系人体病理学分野）

講師：草深 公秀（静岡県立静岡がんセンター病理診断科）

【一般演題】

1. 左側頬部腫瘍の1例

演者：菊池建太郎

（明海大学歯学部病態診断治療学講座病理学分野）他

座長：窪田 展久（神奈川歯科大学附属病院病理診断科）

2. 鼻出血を契機に発見された上顎腫瘍の1例

演者：佐藤由紀子（がん研究会有明病院病理部）他

座長：窪田 展久（神奈川歯科大学附属病院病理診断科）

3. 下顎歯肉病変の1例

演者：菊池 越夫（神奈川歯科大学大学院口腔科学講座）他

座長：宇都宮忠彦（日本大学松戸歯学部病理学講座）

4. 下顎 Sclerosing odontogenic carcinoma の1例

演者：石川 文隆（埼玉県立がんセンター病理診断科）他

座長：宇都宮忠彦（日本大学松戸歯学部病理学講座）

--- 中部支部 ---

中部支部会報編集委員 浦野 誠

第 22 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日 時：2019 年 3 月 9 日（土）

会 場：金沢大学医学部附属病院

テーマ：肝炎・胆管炎—Pathological update—

世話人：原田憲一先生（金沢大学）

参加者：126 名

【特別講演】

1. 筒井朱美先生（香川県立中央病院内科）

「臨床医にとつての肝臓病理

—薬物性肝障害と自己免疫性肝炎の鑑別を中心に—」

2. 伊倉義弘先生（高槻病院病理診断科）

「変容する脂肪性肝疾患の意義・診断」

3. 常山幸一先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野）

「慢性肝疾患病理診断の pitfall」

【症例検討】

S2019-1 市立砺波総合病院 垣内寿枝子 40 代 男性

肝腫瘍 Intraductal papillary neoplasm of the bile duct (IPNB) with an associated invasive carcinoma

肝内胆管に高度に乳頭状増殖する腫瘍で部分的に浸潤を伴っていた。近年の IPNB 概念の整理、胆管内 intraductal tubulopapillary neoplasm (ITPN) との異同等についての知見が述べられた。通常の肝内胆管癌の胆管内浸潤との鑑別も問題となった。

S2019-2 静岡県立静岡がんセンター 角田優子 40 代 男性

肝腫瘍 β -catenin activated inflammatory hepatocellular adenoma

投票結果は一致していた。 β -catenin、glutamine synthetase の免疫染色所見や遺伝子異常を絡めての肝細胞腺腫の亜型診断についての詳細なまとめがなされた。

S2019-3 富山大学 奥野のり子 70 代 男性

嚢胞性肝病変 Multicystic biliary hamartoma

剖検で発見された多房性肝嚢胞性病変。種々の嚢胞性変化や胆管拡張症、過誤腫性病変との鑑別が問題となった。限局性のカロリ病の可能性を疑うとする意見が述べられた。

S2019-4 焼津市立総合病院 久力 権 50 代 女性

肝画像異常 Hepatic portal venous gas

CT 画像が特徴的で門脈および腸管内に著明な気腫像が認められ、剖検で壊死性気腫性腸管炎が確認された。胃十二指腸切除術後の重鉛欠乏症に伴う吸収障害が病態に影響していた可能性が考察された。

スライドセミナーに引き続き、日本病理学会希少がん診断のための病理医育成事業「軟部腫瘍」国立がん研究センター 吉田朗彦先生による講演が行われた。

【第 82 回交見会・中部支部学術奨励賞受賞式】

学術奨励賞 カテゴリー A（専門医試験合格前）

遠藤千尋先生（信州大学）

小出知美先生（名古屋第一赤十字病院）

学術奨励優秀発表賞

酒々井夏子先生（岐阜大学）

次回学術集会・夏の学校

第 83 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2019 年 7 月 6 日（土）～7 日（日）

場 所：岐阜大学医学部記念会館

世話人：宮崎龍彦先生（岐阜大学）

夏の学校 2019 in 三重

日 時：2019 年 8 月 24 日（土）～25 日（日）

場 所：高田会館（津市）

世話人：広川佳史先生（三重大学）

プログラム：病理学×Digital AI —共創の時代へ—

第 84 回日本病理学会中部支部交見会

日 時：2019 年 12 月 14 日（土）

場 所：名古屋大学病院講堂

世話人：中島広聖先生（一宮市立市民病院）

第 23 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

テーマ：乳腺

日 時：2020 年 3 月 14 日

場 所：名古屋医療センター

世話人：西村理恵子先生（名古屋医療センター）

-- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 西尾 真理

I. 活動報告

日本病理学会近畿支部第85回学術集会在下記の内容で開催されました。(検討症例、画像等につきましては近畿支部HP (<http://jspk.umin.jp/>)にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 (jspk-office@umin.ac.jp) までお尋ね下さい。)

開催日：2019年6月15日(土)

会場：京都府立医科大学附属図書館ホール

世話人：京都府立医科大学 伊東 恭子 先生

モデレーター：京都府立医科大学 岸本 光夫 先生

テーマ：胃と腸

症例検討(午前)

943 卵巣腫瘍の一例

岡林 美鈴 先生、他(京都大学、他)

944 左腋窩腫瘍の1例

浜本 雄一郎 先生、他(大阪国際がんセンター、他)

945 若年女性に発生した大腿軟部腫瘍の1例

新田 勇治 先生、他(奈良県立医科大学、他)

946 悪性リンパ腫の一例

皆見 勇人 先生、他(大阪市立総合医療センター、他)

947 陰茎腫瘍および両側鼠径リンパ節腫脹を来した1例

山下 大祐 先生、他(神戸市立医療センター中央市民病院)

948 肝腫瘍の一例

稲場 礼奈 先生、他(神戸大学)

949 左肝管に発生した胆管内発育型腫瘍の一例

児玉 貴之 先生、他(神戸大学/加古川中央市民病院、他)

支部総会・学術奨励賞授与

特別講演1

『除菌後発見胃癌の内視鏡的特徴

—組織像との対比から学んだことを含めて—』

八木 一芳 先生

(新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 消化器内科)

特別講演2

『胃の腺分化と再生バタンを残した胃癌』

杉原 洋行 先生(滋賀医科大学 分子診断病理学)

病理講習会

1. irAE 腸炎の臨床像

川上 尚人 先生(近畿大学 腫瘍内科)

2. 薬剤関連腸炎、特に immune-related Adverse Events (irAE) 大腸炎について—自験例を通して—

筑後 孝章 先生(近畿大病院 病理診断科)

II. 今後の活動予定

a) 令和元年度 近畿支部主催 『病理 夏の学校』が開催

されます。

開催日時：2019年8月24日(土) 13:00～

(12:00～受付開始)

会場：京都府立医科大学 第一講義室・第三実習室

世話人：京都府立医科大学 伊東 恭子 先生

実習(下記3コースより選択)

- 1) ミニCPC (Clinico-Pathological Conference) コース
- 2) 外科病理診断コース：手術材料・生検の診断に挑戦
- 3) 研究コース：方法論の講義とウェットラボ体験

発表会

特別講演「おもしろい人生の歩み方 一楽しくそして有意義に」

仲野 徹 先生(大阪大学 病理学 幹細胞病理学/時空生物学 病因解析学)

懇親会(京都府立医科大学生協学生食堂「ボレボレ」)

b) 第86回学術集会在下記の内容で開催されます。

開催日：2019年9月21日(土)

会場：国立循環器病研究センター講堂(JR 岸辺駅前)

世話人：奈良県立医科大学 大林 千穂 先生

モデレーター：奈良県立医科大学 畠山 金太 先生

テーマ：心血管疾患(仮題)

午前：症例検討

午後：(タイトル仮題・講演カテゴリ予定)

教育講演

1. 『心血管病理解剖の要点』

植田 初江 先生(国立循環器病研究センター)

2. 『心筋生検の見方』

池田 善彦 先生(国立循環器病研究センター)

3. 『不整脈の病理』

松山 高明 先生(昭和大学 法医学講座)

4. 『冠動脈の病理』

畠山 金太 先生(奈良県立医科大学 病理診断科)

特別講演

『心臓サルコイドーシスの臨床と病理』

廣江 道昭 先生(国立国際医療研究センター 循環器内科)

※会場確保は、植田 初江 先生にご尽力頂きました。

c) 日本病理学会 希少がん病理診断講習会(近畿支部開催分)が下記の内容で開催されます。第88回日本病理学会近畿支部学術集会和同時開催となります。事前の参加登録は不要です。

開催日：2020年2月22日(土)

会場：大阪市立総合医療センターさくらホール

講師：田中 祐吉 先生(小児腫瘍)

-- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 佐竹 宣法

開催予定

1. 第129回学術集会

日 時：令和元年6月22日(土)

世話人：高知大学医学部 病理学講座 降幡陸夫教授

2. 病理夏の学校

日 時：令和元年8月17日(土)18日(日)

会 場：奥道後温泉 奥道後 壺湯の守

テーマ：病理学の原点に触れる

世話人：愛媛大学医学部 解析病理学 増本純也教授

-- 九州・沖縄支部 -----

九州沖縄支部会報編集委員 古賀 裕

第368回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時：2019年3月9日(土)13:00~17:00

場 所：KITEN(きてん)コンベンションホール 大会議室

世話人：宮崎県立宮崎病院 病理診断科 丸塚浩助先生

参加数：103名

第368回スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断

座長：田中弘之(宮崎大学)

1. 左鼻腔腫瘍/稲葉優奈/産業医科大学 第一病理学/70代/女性/
Sinonasal carcinoma, INI1 (SMARCB1) deficient / Sinonasal carcinoma
2. 舌腫瘍/山本晃士/宮大腫瘍・再生病態/附属病院病理/60代/男性/
Spindle cell / pleomorphic lipoma / Lipoma
3. 顎下腺腫瘍/石嶋聡介-新野大介/長崎大学病院 病理診断科/60代/
男性/High-grade carcinoma with squamous differentiation /
Adenocarcinoma
4. 肺病変/今村智美-平木 翼/鹿児島大学病理学分野(研修医)/60代/
男性/Paragonimiasis, probably westermani / Paragonimiasis

座長：前川和也(宮崎大学)

5. 小腸腫瘍/甲斐敬太/佐賀大学医学部附属病院病理診断科/60代/男性/
Extraosseous plasmacytoma / Lymphoma, plasmablastic
6. 肝腫瘍/金城賢尚/久留米大学医学部 病理学講座/60代/女性/
Epithelioid hemangioendothelioma / Epithelioid hemangioendothelioma
7. 肝腫瘍の一例/小賀厚徳/山口大学 院 分子病理学/60代/男性/
Malignant melanoma / Lymphoma

座長：阿萬 紫(宮崎大学)

8. 右乳腺腫瘍/名和田彩/産業医科大学第二病理/60代/女性/
Myeloid sarcoma of the breast / Lymphoma
9. Tumor of the kidney / 立石悠基 / 九州大学形態機能病理学教室 / 10代 /
女性 / Translocation renal cell carcinoma, MiT family, TFE3 /
Translocation renal cell carcinoma, MiT family, TFE3
10. 後腹膜腫瘍/神尾多喜浩/済生会熊本病院 / 40代 / 女性 /
Pigmented PEComa / Paranglioma

座長：秋山 裕(宮崎大学)

11. 下眼瞼腫瘍/中村恵理子/宮崎大学 構造機能病態学/10代/女性/
Solitary fibrous tumor (Giant cell angiofibroma) / Solitary fibrous tumor
 12. 右前頸部腫瘍/林洋子/長崎大学大学院歯薬学総合研究科一佐世保
共済病院 / 40代 / 男性 / Ectopic hamartomatous thymoma /
Ectopic hamartomatous thymoma
 13. 左示指軟部結節/添田李子(研修医)-伊東正博/長崎医療センター病
理診断 / 60代 / 女性 / CPPD crystal deposition disease /
Chondroma, extraskeletal
- 座長：福島 剛(宮崎大学)
14. 膝窩軟部腫瘍/大坪智恵子/長崎医療センター / 30代 / 女性 /
Extraskeletal myxoid chondrosarcoma /
Extraskeletal myxoid chondrosarcoma
 15. 脊髄髄内腫瘍バーチャル/大倉航平/熊本大学医学部附属病院病理診
断科(病理部) / 10代 / 男性 / Diffuse midline glioma, H3 K27M-mutant /
Ependymoma
 16. 右側頭葉腫瘍 バーチャル/山田恭平/久留米大学医学部病理学講座 /
10代 / 女性 /
Polymorphous low-grade neuroepithelial tumor of the young (PLNTY) /
Oligodendroglioma

なお本スラコンの冒頭にて、第91回九州病理集談会と364回スラコンの台風振替分として以下の発表がありました。

第91回九州病理集談会

座長：石原 明(宮崎県立延岡病院)

心膜欠損への心嵌頓により急性心筋梗塞を発症した一例/大栗伸行/宮崎大学医学部 構造機能病態学/70代/男性/

第364回スライドコンファレンス

座長：木佐貫 篤(宮崎県立日南病院)

3. 胃腫瘍/渡辺次郎/福山医療センター(産大2病理)/70代/男性/
Extremely well differentiated adenocarcinoma in mucosal hernia /
Adenocarcinoma
7. 右腎腫瘍/魏 峻洸/宮崎大学 構造機能病態学/70代/女性/
Clear cell papillary renal cell carcinoma /
Clear cell papillary renal cell carcinoma

第369回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時：2019年5月18日(土)13:00~18:00

場 所：九州大学医学部 百年講堂1階 大ホール

世話人：九州大学大学院 形態機能病理学教授

小田義直先生

参加数：217名

第369回スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断

座長：藤田 綾(福岡東医療センター)

1. 皮膚腫瘍/吉村雅代/福岡大学/9歳/女性/Atypical Spitz tumor /
Malignant melanoma
2. 左顎下部腫瘍/霧島茉莉/鹿児島大学病理学分野/10代/男性/
Pediatric-type follicular lymphoma / Pediatric-type follicular lymphoma

3. 喉頭腫瘍 / 小山雄三 / 大分大学医学部 診断病理学講座 / 70代 / 男性 /
Well differentiated liposarcoma with heterologous elements / Hamartoma
座長: 米田玲子 (浜の町病院)
4. 胃病変 バーチャル / 北原大地 / 福岡赤十字病院 病理診断科 / 50代 / 男性 /
Gastric lesion in syphilis infection / Syphilitic gastritis
5. 胃腫瘍 渡辺次郎 / 福山医療センター 産業医大2病理 / 80代 / 男性 /
Gastric carcinoma with lymphoid stroma and GIST /
Adenocarcinoma + Gastrointestinal stromal tumor (GIST)
6. 虫垂病変 / 入江準二 / 長崎みなとメディカルセンター / 30代 / 男性 /
Acute phlegmonous appendicitis with schistosomiasis / Schistosomiasis
座長: 野口紘嗣 (鹿児島大学病理学分野)
7. Breast tumor / 宮下 優 / 九州大学形態機能病理学 / 60代 / 女性 /
Adenomyoepithelioma with atypical apocrine metaplasia / Adenoma
8. 左腎腫瘍 / 中村俊央一盛口清香 / 宮崎県立宮崎病院 病理診断科 / 70代 / 女性 / Xp 11.2 転座型腎細胞癌 /
MiT family translocation renal cell carcinoma
9. 精巣腫瘍 / 川上 史 / 熊本大学医学部附属病院病理診断科 / 20代 / 男性 /
Mixed germ cell tumor (teratoma.EC>YST>PSTT) /
Mixed germ cell tumor
座長: 安里嗣晴 (熊本大学病院 病理部)
10. 卵巣腫瘍 / 甲斐敬太 / 佐賀大学医学部附属病院病理診断科 / 50代 / 女性 /
Seromucinous borderline tumor / Seromucinous borderline tumor
11. The lesion of lymph node / 蜂須賀一寿 / 九州大学形態機能病理 / 40代 / 女性 /
Lymphangioliomyomatosis (LAM) /
Lymphangioliomyomatosis (LAM)

日本病理学会九州沖縄支部 2019年度世話人会

日時: 2019年5月18日(土)

会場: 九州大学病院地区 百年講堂大ホール

(第369回スラコン会場)

1. 日本病理学会九州沖縄支部 役員・事務局の交代(案)
2. 2019年度の開催予定
3. スラコン各機関の出題・投票・出席状況
4. 新規加盟機関、世話人
(新規加盟機関)

純真学園大学保健医療学部 看護学科 自見厚郎

国立病院機構佐賀病院 病理診断科 内橋和芳

下関市立市民病院 病理診断科 半田瑞樹

北松中央病院 病理部 杉原 甫

くまもと県北医療センター公立玉名中央病院

病理診断科 坂下直実

熊本赤十字病院 病理診断科 長峯理子

タイムズクリニック 長嶺由啓

AII 病理画像研究所 岩下明徳

(世話人交代)

九州大学大学院 形態機能病理学

大石善丈 → 古賀 裕

長崎大学原爆後障害医療研究所 原研病理

三浦史郎 → 黒濱大和

長崎大学病院 病理部 新野大介 → 田畑和宏

宮崎大学病理学講座 腫瘍・再生病態学

田中弘之 → 赤木真由美

飯塚病院 病理診断科

大屋正文 → 大石善丈

福岡山王病院 病理診断科

恒吉正澄 → 大屋正文

国立病院機構九州医療センター

検査科病理・病理診断科

河内茂人 → 藤原美奈子

浜の町病院 病理診断科

本下潤一 → 米田玲子

高木病院 病理部

杉原 甫 → 高瀬ゆかり

国立病院機構長崎医療センター

病理診断科

伊東正博 → 三浦史郎

日本赤十字社長崎原爆病院 病理

重松和人 → 安倍邦子

佐世保市総合医療センター 病理診断科

岩崎啓介 → 新野大介

沖縄協同病院 病理診断科

内間良二 → 樋口佳代子

那覇市立病院 病理診断科

喜舎場由香 → 新垣京子

山口県済生会下関総合病院 病理科

奥田信一郎 → 帖地康世

日本病理学会九州沖縄支部 2019年度総会

日時: 2019年5月18日(土)

会場: 九州大学病院地区 百年講堂大ホール

(第369回スラコン会場)

1. 報告事項

- 1) 日本病理学会九州沖縄支部優秀症例報告賞 該当者なし
- 2) 第8回九州沖縄支部病理学校
(第8回初夏の病理学校2018 あしきた)
- 3) 各種委員会
業務委員会、若手病理医の会、学術委員会、女性病理医支援
窓口、ホームページ委員会、TF委員会、広報委員会
- 4) 九州沖縄支部スライドコンファレンスとコンサルテ
ーション運用システム
- 5) その他

日本病理精度保障機構報告、サーバー問題について

2. 議題

- 1) 日本病理学会九州沖縄支部・役員交代(案)
- 2) 2018年度決算報告(案)
- 3) 2019年度予算(案)
- 4) 九州・沖縄コンサルテーションシステムの規定変更につ
いて
- 5) 第9回九州沖縄支部病理学校
(第9回秋の病理学校2019 八女)

付記: 病理学会委員会における九州沖縄支部関連者

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：柴原純二（委員長）、田中 敏（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、富田裕彦（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、西尾真理（近畿支部）、佐竹宣法（中国四国支部）、古賀 裕（九州沖縄支部）
=====

日本病理学会コンサルテーションシステム 謝辞

平成30年度日本病理学会コンサルテーションシステムにおきまして、ご尽力を賜りましたコンサルタントの先生方に心より感謝申し上げます。本システムのコンサルテーションをお引き受けくださった先生方を以下に記載させていただきます。

令和元年6月吉日
一般社団法人 日本病理学会
理事長 北川 昌伸

相島 慎一	秋山 太	新井 栄一	新井 富生	石川 雄一	石田 剛
泉 美貴	伊藤 雅文	井上 健	今北 正美	今村 好章	岩田 純
岩渕 三哉	植田 初江	牛久 哲男	浦野 誠	大江 知里	大島 孝一
大林 千穂	岡 輝明	小川 郁子	尾島 英知	小田 義直	小幡 博人
柿田 明美	覚道 健一	鹿毛 政義	亀山 香織	川本 雅司	菅野 祐幸
岸本 宏志	清川 貴子	草深 公秀	九嶋 亮治	黒田 直人	小島 勝
小西 英一	小森 隆司	桜井 孝規	佐々木 恵子	笹島 ゆう子	笹野 公伸
佐藤 康晴	清水 章	城 謙輔	菅井 有	鈴木 正章	関 邦彦
園部 宏	鷹橋 浩幸	竹内 真	竹下 盛重	武島 幸男	田中 祐吉
田丸 淳一	津田 均	土屋 眞一	都築 豊徳	堤 寛	手島 伸一
土居 正知	豊澤 悟	長尾 俊孝	長坂 徹郎	中嶋 安彬	長嶋 洋治
名方 保夫	中谷 行雄	中沼 安二	中峯 寛和	中村 栄男	中村 直哉
鍋島 一樹	二階堂 孝	二村 聡	野口 雅之	野島 孝之	羽尾 裕之
長谷川 匡	長谷川 博雅	林 博之	原田 憲一	久岡 正典	比島 恒和
平戸 純子	廣川 満良	廣島 健三	廣瀬 隆則	福永 真治	藤林 真理子
堀井 理絵	本間 慶一	本間 琢	増井 憲太	増田 しのぶ	松野 吉宏
松本 俊治	三上 修治	三上 芳喜	湊 宏	元井 亨	森谷 鈴子
森永 正二郎	森谷 卓也	八尾 隆史	安田 政実	谷田部 恭	柳井 広之
柳澤 昭夫	山口 岳彦	横尾 英明	吉田 朗彦	吉野 正	若狭 研一

(敬称略)